

米子市地方創生有識者会議（第4回）会議録（概要）

日 時 平成27年10月14日（水）

15:00～16:30

場 所 米子市役所401会議室

1. 開会

2. 座長あいさつ

（新オブザーバー紹介）

3. 議事

（1）米子がいな創生総合戦略（米子市人口ビジョン及び米子市まち・ひと・しごと創生総合戦略）の素案について

（事務局から説明）

古賀座長：事務局から説明のありました戦略の素案に関して、全体的に感じたことについて、一言ずついただきたいと思います。

中西委員：私はJAで農業の関係ですが、農林課長さんの方でかなり細かいところも加えていただきました、これでしたら私の関係なり、農家組合の方にも理解いただけるんじゃないかと思っています。

手島委員：少し総花的と感じましたが、2060年にはこの推計からしますと、米子市の人口は、境港と足したところではありますが、経済圏域の中で鳥取市を抜くような人口になってくるんだと。鳥取市よりも人口を増やしていくための、今後の施策の展開がこのレジュメの中にあるのかなと思います。合計特殊出生率というのが米子は随分高く、それをベースにして出た数字というのは高めなのかなと、その目標に向けて2060年12万8千人を維持、2040年に13万8千人を維持していくという事は、具体的に施策の進捗が必要になってくるものと思いますし、まずは一歩ずつ前に出ていかないといけないのかなと思います。その政策の中で企業誘致であったり、いろいろなことがありました。すでにあるものをいかに伸ばしていくかという観点で、前回少し言いましたが、医学部の関連のコメントが少ないんじゃないかと思いました。米子に介護とか医療とか十分な施設があって、他地域に比べて米子の特色であるということをおっしゃられて、まずそこを伸ばせば、既存のものが広がっていき、若者である学生が増えて、かつ安心して高齢の方もお住まいになられ、（暮らしやすさランキング）全国1位の米子市の人気もますます上がっていくのではないかと思いますので、その点だけは物足りなさを

感じたことです。

倉間委員：せっかく立てられた目標ですので、これを達成できるようにしていくには、本当に大変なことだろうなと思っております。商工会としても協力できる点は、一緒になって協力していきたいと思っております。

岡村委員：各戦略にK P Iが設定されていて、それを束ねたゴール指標というのは、人口ビジョンの数字ということを私なりの理解をさせていただくと、やはり人口なんだろうなというところに行き着くということを感じています。子育ての支援の問題であったり、早急着手しなければいけないこともたくさんあるでしょうし、C C R Cの検討も必要だと思います。もちろん米子の魅力を発信していくプロモーション戦略も非常に重要なことになってくると思いますので、そういったことの優先順位をつけながら、これだけの戦略がある中で、どれから手をつけていくのかとってしまうところもありますが、順序が違えば結果が変わることもあるかもしれませんので、優先順位付けというのが非常に重要になってくるんじゃないかと思っています。先ほども申し上げましたが、人口というところは最終的には事業の創造というか、稼ぐ力っていうのをやっていかないと、雇用の創出もできませんし、結果、人口の再生というのなかなか見通しづらいと思いますので、行政も含めて稼ぐ力をつけていかなければいけませんし、我々、地元金融機関としても、そういったお手伝いができることがあれば全力でやっていきたいと思っております。

新日本海新聞社取締役西部本社総局長：これをどう実現に移していくかが肝要でございますので、今後それを元にして成案ができましたら、それについて形づくりをしていただきたいと思います。ここでは総合戦略全体の根幹部分につきまして一言申し上げたいと思います。というのは、この米子市の総合戦略でやや危うさを感じているところがございまして、その要因の一つが、鳥取大学の医学部でございます。先に、商工会議所の方が、湊山公園周辺、湊山球場ですね、この用地を医学部と鳥取病院の方に提供するように求めて、医学部本体も同様の趣旨で、用地提供を迫る考えを出しました。これが実現不可能であれば、鳥取市移転もやむなしということで、かなり踏み込んだ決意を示しておられます。仮に医学部が鳥取市に移るといことになれば、総合戦略に掲げております、健康安心都市づくり、人口ビジョン、経済、雇用、これが全て根幹から崩れて参ります。まず鳥取大学医学部を米子市に繋ぎ止めるために、具体的に強いメッセージを発する必要があるんじゃないかと思っています。

もう一点が、米子駅南北一体化事業でございます。ようやく動き出した感がありますが、まだまだ青写真が鮮明になってきていません。J R 米子駅については、駅ビルの耐震性もありまして、一刻の猶予もできない段階にきております。このまま膠着が長引いていけば、J R 西日本の支社機能が島根県側に移る可能性もゼロではないと思います。私自身も、今のこの行政スピードではたして大丈夫かなとかなり心配をしております。そうなった場合、総合戦略の土台の部分の部分を失うわけでございます。J R 米子駅の南北一体化というのは、鳥取大学医学部の連携とも絡んだ要素も持っていますので、この点についてもこの総合戦略がしっかりと地に根をはったものにするためには、さらに事業推進にしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

鳥取西部総合事務所地域振興局長：暮らしやすさ日本一といったような、住んでいる側、あるいは訪れた側からの暮らしやすさという視点を盛り込んでおられます。行政の計画というのは、全部盛り込むと総花的なものになるんですけど、最初に人口ビジョンがあり、第2章に地理的な実情、強み弱みという分析があって、第3章で5つの観点からのまちの展望というものがある、多面的なビジョンがあるのではないかなと思います。今後は、現在の強みを活かしながら、さらには移住定住ですとか、インバウンド、あるいはCCRCといったような攻めの部分、そういったことをいかにやっていくというアクションプランの実現計画の方が重要になってくるのかなと思います。

山上委員：非常に盛りだくさんで多岐に渡っておりまして、一市民として本当にこれだけのことが、行政サービスをされながら、市役所の中から5年間できるのかというのを心配するぐらい、てんこ盛りの内容となっていると思います。これを5年間やっていかないと米子の将来はないということですから、それぐらいの強い思いで作られた計画だということはしみじみ分かります。私は銀行なんですが、会社もそうですが、3年の中期計画とか5年の中長期計画を立てるんですけど、練るときは半年、1年がかりで作るんですけども、それを実行に移すPDCAをしっかりと回すかどうか、その後にかかってきますので、組織というのは縦割りの部分があると思いますが、ぜひ組織を横断的に、施策の優先順位を含めて、この計画を実行していただきたいと思います。場合によっては市の組織を再編することまでも含めて、取り組まなければならない計画も入っていると思います。KPIを定めた以上、この数字をやっていかないといけないということもありますので、そういったPDCAを回すための組織づくりをしっかりやっていただけたらと思います。

森田委員：将来人口推計を見ると、2020年に米子市独自推計に比べて、数字で言うと3千人ほど底上げしないといけない、2060年になると約2万人弱の人口を増やすようなことをしないといけないので、かなり大変だろうなと思います。5年後の目標を全部達成できれば、十分途中経過はいけると計画されていて、地道な努力の積み重ねで目標を書かれていますけど、堅実に作られているなという感じと、5年後に6千2百人の人口増があれば、10年後までの目標をクリアするという、非常に丁寧な目標を立てられているなという印象を受けました。ただ、その後の2040年とか2060年の人口の減少が非常に大きな数字で予想されますので、ここはやはり地道なものだけでは、なかなか難しいのではないかなと。何か米子市の特徴、強みが活かせるようなところが2つ、3つと新たに進めないと、将来の目標というのは難しいのではないかと思います。それも見据えて、今後何か戦略を練る、計画を立てていかれるということを期待しております。

前田委員：人口ビジョンにつきましては、社人研の推計の減少のペースよりも、その半分のペースで人口の減少になるという推計になっていますが、これは妥当だと思います。米子市はすでにこの10年間15万人規模の人口の維持を実現しております。それが持続する限りは、減少すると言っても、国の推計よりもマイルドなものに留めるということは十分可能。そのために何をしていくかということで、雇用創出、流入促進、子育て支援、広域連携、4つの柱で合計91の施策を立てられたわけですが、非常にバラ

スよく配備された政策を組み込まれていて、その中で米子市というのは山陰の拠点都市であり、コンパクトで、日本一暮らしやすいまちなんだというメッセージを明確に打ち出されているという点はかなりメリハリの利いた、しっかりした戦略になっているのではないかと思います。あとは91もの政策をいかに効率的に成果を出していくか、そこを問われると思いますので、産学金労との連携など、周りを巻き込んで、オール米子で全力で向かっていくと、あとは実行あるのみと考えるので、何卒実現に向けて各機関との協力を深めていただきまして、全力で取り組んでもらえばと思います。

但馬副座長：この素案は5年間の市の取組ということで、施策として取組むということを掲げたということでございましたので、医大の問題やJRの南北一体化の件などありますが、この総合戦略とは別の都市計画や総合計画の方に舞台が移って行って、そちらの方で議論をしていかれるのかもしれませんが、こういった有識者会議で出た意見を総合戦略と違うところで実現していけるような形になればいいなと思いますので、その辺り関係機関との調整と言いますか、相談をしながら進めていっていただけたらと思います。

古賀座長：皆さんのご意見が、この中から少し外れているというところがあって、私共の意見をこれからもしていかなければいけないと思いました。この立場になって気がついたことなのかもしれませんが、地方創生については、私達自身が意識をして、市民全体が意識を統一して、進めていくことはとても大事なことでございまして、この計画をの実現に向けて進めるためには、多数の市民の方々の協力ができないのではないかと考えております。市民の立場でできることは何なのかということを考えながら、私達でできることを進めながら、必要なところは連携して、進めていく。そういった意思を固めて、改めてこの5年間を進めていきたいと思いました。

これで皆さんからの意見は終わりになりますが、この総合戦略の最終的な取りまとめをしていただいて、この先進めるにあたって、アクションプランなどの設定も、また引き続き総力を上げて進めていただきたいと思います。

今日ご欠席の委員の方々から何かご意見・感想などは届いていますでしょうか？

永瀬室長：欠席の委員の方からは頂戴していませんが、改めて確認をしておきたいと思います。

古賀座長：それでは、この総合戦略に関しまして、細かい部分に関してご指摘、ご質問などありましたら、それをいただきながら市の方のコメントをいただきたいと思います。

何かご発言ありますでしょうか？

但馬副座長：資料2（総合戦略素案）のP75にポップカルチャー等による地方創生への取組が書いてありますが、この米子には山陰コンテンツビジネス協議会というのがありまして、そういったコンテンツ産業振興に取り組んでおられるという活動もしていらっしゃいます。コンテンツ産業というのは、市場規模が14兆円とも言われておりまして、日本はアメリカ次ぐにそういった規模をもっているところでございます。今そういった漫画・アニメを使って地域の振興を起こしていくという取組もありますので、そういった人材をこの米子で

育てるための学校というものを誘致していったらどうかという動きもあるように聞いていますので、ぜひこの総合戦略に盛り込むことができるのであれば加えていただきたい。今回は時間的に難しいということであれば、次に戦略の見直しがあるときに、ご検討いただければと思っております。そういったアニメの学校を誘致することによって、この地で県外に出なくても、米子でこういった学問を修めることができる、あるいは、他の地から米子にIターンと言いますか、勉強に来る人がいるということで、人口の増にも繋がるでしょうし、講師の方も米子に来て教えていただけるということで、定住人口の増加にも繋がっていくのではないかと思います。それからアニメというのは、東南アジアでも学ぶ人が多いということを聞いていますが、幸いソウル便がありますので、マーケットとしては、中国や韓国からもそういったアニメの学校に来ていただける可能性もあるので、ぜひ検討していただきたいと思います。

古賀座長：アニメに関しては、鳥取県には水木しげるさんとか、アニメ関係の方がたくさんいらっしゃるということで、鳥取県内でそういうイベントがあり、そこにロシア人が遊びに来て、それが一つの縁で、鳥取大学の教員として働いております。若者を引き寄せる一つの取組になるのではないかと感じますので、ぜひご検討いただければと思います。

杉村企画課長：民間でこのような動きがあることは承知しています。現状では米子市の施策としてどういった支援や協力ができるのかというのが決まっていないという状況でございます。今後、米子市として何かの施策をするということになれば、戦略に付け加えていくという格好になると思います。

手島委員：資料2のP40、(3) 充実した医療・介護環境とうことですが、鳥取大学医学部の存在というものが、今後高齢者が随分多くなり、国の財政的な懸念などいろんな課題がある中で、医大というだけでなく大学であるわけですので、米子に若い方がたくさん来られるということは、大学があるからであると思います。医学部があるということで、先生がいらっしゃって、生徒さんがいらっしゃって、生徒の方がドクターになって、インターンになって開業されると、あるいはどちらかの病院に行かれる方もあるかもしれませんが、これだけのことを医大をベースにして近辺の病院にもドクターが行かれて、次々と人の流れといものができて、鳥取大学医学部があるからその人的なインフラもこの長年の流れで行き着かれたものだと思います。

特性の中の一つに書いてあるんですが、大学という意味合いと、医学部であるということは、米子の成長になくはならない一つの産業だと認識しています。柱にするには今からでは難しいかもしれませんが、医学部だけではなく、大学であるということで、学生を増やす、若い人が定住する可能性が高くなるわけですので、その辺の視点から何か加えていただければいいと思います。

古賀座長：医療活動だけではなくて、医療機器の開発等の先端的な取り組みについて、積極的に進めておりまして、これに関して米子市さんのご協力もいただきたいと思います。

P57の「先端医療創造都市よなご」の実現に向けた活動を進めていくということが重要になってくると思います。今回情報発信にとどまっているんですが、今後、産官学金連携の活動というのもひとつの「先端医療創造都市よなご」の活動のひとつという形で含めて進めていただければよいのかなと感じております。

ぜひ、医療が整った米子というものを柱として発信していただけるように検討をお願いしたいと思います。

白石企画部長：「先端医療創造都市よなご」の情報発信ということですが、米子は医療・介護が充実しているんだということを全国に情報発信しないと、全国的には認知度が高いとは思っていませんので、まずはそういうことをしましょうという最初のステップであると考えております。これにとどまることなく、下のⅠ－４－②、仕事の種づくりなどの産学連携の研究への支援ですとか、広域連携で取り組む、医工連携の取組ですとか、今後はそういったことも踏まえてやっていきたいと考えております。

古賀座長：今回多数の施策をまとめられたわけですが、今後国からの補助金の金額によって、取捨選択していくのか、あるいは、これに関してはあくまでも5年間は91の施策を基本的に進めていくのか、この方向性について教えていただきたいと思います。

杉村企画課長：国の方も来年度、地方創生に関する交付金を概算要求されています。国の交付金の要件としては2分の1ですよということがはっきり出ておりまして、残りの半分は各自治体で負担するという状況になっております。戦略に掲げた91の施策については5年間でやっていくんだというつもりで戦略を作っておりますが、経済状況等5年間でどうい変化が出てくるか分かりませんので、その辺りは市の財政状況も勘案した上で、優先順位をつけるとか、規模を少し変えていくことはあろうかと思っております。

また、この戦略は見直しをかけていくという前提ですので、効果があるものは充実させていく、効果がないものは止めていく、あるいは新たな戦略を追加していくなど、弾力的に対応していきたいと考えております。

古賀座長：5年間の中での私達、有識者会議の役割というのも非常に大きいと考えております。実施されていく計画について私達がウォッチングするという役割も担っていくのではないかと。見直しをする際に、効果がないものを止めるということについて、あまり効果がないようですので、こちらを優先順位を上げてくださーいというような形の議論もあってもいいのかもしれないし、世の中に動きに即して、改めてこの施策をぜひ検討していただきたいということなど、これからも発言していただきたいと思っております。

（2）今後のスケジュールについて

（事務局から説明）

16：30 閉会